



国立大学法人 京都大学 ～がん・難病克服に向けた研究と 治療への取り組み～

総長メッセージ

京都大学医学部は、1899年(明治32年)に京都帝国大学医科大学として創立されて以来120余年にわたり、世界の医学と医療の分野で先進的な役割を果たすとともに、医療現場において安全で質の高い医療を提供してまいりました。

世界は今まさに新型コロナウイルスへの対応を迫られる最中にありますが、京都大学はこれまでも結核やエイズウイルスなど人類の脅威である感染症の治療に向け研究や治療に正面から取り組み、大きな成果を上げてきた歴史があります。

そして2018年には京都大学医学部の出身で、医学研究科長・医学部長をつとめられた本庶佑特別教授がノーベル生理学・医学賞(2018年)を受賞したことは記憶に新しいところです。本庶特別教授の研究は、PD-1の発見をはじめとする基礎的な研究が、新しいがんの治療法として臨床に応用され、今では最も効果的ながん治療法のひとつとして世界中で広く用いられるに至っており、医学の基礎研究が、実際の臨床応用に結びついて人類の健康維持に大きな貢献をもたらした代表的なものといえます。2020年4月には、日本初のがん免疫拠点として「がん免疫総合研究センター」が設置され、本庶佑特別教授が初代センター長に就任し、次世代がん免疫研究・治療を発展させることを目的として活動しています。

京都大学には世界トップレベルの「知」が集います。世界の優秀な知識を集結し、一丸となり研究を行える場であるのがまさに京都大学の強みであります。この知の集大成である成果をいち早く難病の克服に繋げ、人類の健康と福祉の向上に貢献することが京都大学の果たすべき使命です。



ご支援の活用

人々がより健康で幸せに暮らせることを願い、いただいたご寄附は、京都大学の難病克服に向けた研究活動、医療活動に取組む環境整備、次世代を担う人材育成の取組に活用させていただきます。

- 難病克服に向けた最先端医療、創薬など研究活動の支援
- 医学分野の垣根を越えた技術と融合した研究とそのための環境整備
- 先進的な医学・医療に貢献できる医学研究者・医療人の育成

ご寄附いただいた場合

- ◆京都大学への寄附金は寄附金控除の対象となります。
 - ・ご毎年12月(予定)を目途に、寄附金の領収証書を郵送します。
 - 寄附金控除を受けるためには、確定申告の際に領収証書を添付してください。
- ◆活動内容を報告します。
 - ・京都大学の年次報告書など活動状況をお送りします。
- ◆顕彰制度
 - ・ご寄附の累計額に応じて、銘板の設置など顕彰制度を用意しております。

団体連絡先

京都大学 総務部渉外課 基金室

京都市左京区吉田本町
TEL:075-753-5423 FAX:075-753-2286
URL:<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

ご支援でできること

京都大学医学研究科・医学部の取り組み

京都大学医学研究科・医学部は、全国屈指の規模を誇る研究体制を有し、現代人の多くの方が苦しめているがん、脳血管障害(脳梗塞、脳出血等)、神経疾患(パーキンソン病等)、認知症(アルツハイマー等)など難病の克服に向けた最先端の研究と治療に取り組んでいます。研究を進めるにあたっては、ウイルス・再生医科学研究所、化学研究所、iPS細胞研究所などの学内研究所や学外の連携大学院等とも連携し、独創的で国際的レベルの医学研究を進めています。また京大医学部附属病院は、1000を超える病床を備え、京都大学医学研究科・医学部との連携のもと、質・量とも他の追随を許さない最先端の治療環境設備を整え、全国国立大学病院のなかで屈指の手術件数を誇るなど、安全で質の高い医療を提供しています。

また総長メッセージにあります通り、2020年4月には「がん免疫総合研究センター」が京都大学大学院医学研究科附属教育研究施設として設置されました。センターでは国内外のがん免疫研究者が分野横断的に集結し、医学部附属病院などの医療機関との連携のもと、がん免疫研究・治療における諸課題を世界に先駆けて解決し、がん医療の飛躍的向上に貢献することを目指しています。「がんの征圧」という大きな夢に向かって活発な研究が京都大学で行われます。

京都大学のこれからの取り組み

医学・医療を取り巻く環境は、21世紀を迎えて大きく変化しています。医学は薬学・理学・工学分野等との密に融合することで学際的な分野を形成しているほか、科学技術の進展により、最先端の画像や遺伝子解析技術、患者情報などのビッグデータ解析が優れた研究には不可欠になっています。一方、臨床医学にあつては、疾患の原因、診断、治療の研究にとどまらず、臓器移植、遺伝子治療など生命倫理に関わる問題や先端医療の進歩と生命の尊厳との調和、超高齢化社会の到来による疾病構造の変化、患者やQOLを重視した医療などの問題が更に重要な課題として浮かび上がり、医学・医療を取り巻く環境は大きく変貌しようとしています。

このように現代社会が立ち向かうべき問題は、ますます複雑化し多様化しています。医学の世界においても、一つの学問領域にとどまらず、多方面の領域の研究者が集い、研究することの重要性が増しています。京都大学は世界トップレベルの「知」が集う「京都」の地で、難病克服に向けた研究と治療をすすめ、人類の健康と福祉に貢献していく考えです。また次世代の医学・医療を担う人材育成も京都大学の重要な使命です。専門分野における最先端の知識と技術のみならず、広範な教養とともに、高い知的好奇心や実践力を持ち未知なる命題に挑戦し、新たな価値観を創造できる人材の育成を目指し、様々な教育カリキュラムを実践していきます。



教育研究活動充実に向けた支援



基礎医学記念講堂・医学部資料館(1902年竣工)